

## 目次

[今週号は 2023 年 2 月 8 日時点の情報を基に作成しています]

|                     |   |
|---------------------|---|
| マクロ経済コラム：第 3 四半期の決算 | 1 |
| 日本株銘柄情報：ローム (6963)  | 2 |
| 日本株銘柄情報：TDK (6762)  | 3 |

## 第 3 四半期の決算

横山 泰史

先月下旬から、3 月決算企業の第 3 四半期決算（22 年 10-12 月）の決算発表がスタートしました。今まで発表された企業の決算内容をみると、グローバル経済が減速している影響が、個々の企業の業績に表れているといった印象を受けます。例えば、1 月 24 日に発表された日本電産の第 3 四半期の決算では、通期の営業利益の会社予想が従来の 2100 億円から 1100 億円へと大きく下方修正されました。日本電産は小型モータの生産量では世界 No.1 の会社です。同社の製品は、携帯電話、PC、自動車など私たちにとって、身近な製品で使用されています。このため、日本電産の苦戦は他の製造業にとっても他人事ではないといえますが、今年は例年と比較して苦戦をしている（下方修正の発表）企業が目立つ印象です。

製造業のなかで、足元で苦戦している企業が目立つ背景には、なんとといっても PC、スマホ販売の不振があります。PC、スマホは既に世界で広く普及しており、新たな買い替え需要が刺激されていないことが背景にあります。

日本企業には、村田製作所、太陽誘電、日本航空電子工業、TDK など PC やスマホ部品に強いメーカーが多いのですが、上記の銘柄は全て第 3 四半期の決算発表時に通期の業績予想の下方修正を発表しています。自動車業界も足元で収益環境が厳しい業界といえますが、自動車部品大手のデンソー、アイシンも第 3 四半期の決算発表時に通期の業績予想の下方修正を発表しました。

一方で、もちろん好調な第 3 四半期の決算を発表した企業もあります。三菱商事、三井物産、丸紅など大手商社、信越化学工業、ANA ホールディングスは第 3 四半期の決算発表時に、通期の会社予想の上方修正を発表しました。世界経済の先行きや為替動向に不透明感が高まっていることによって、企業によって業績の良し悪しが大きく分かれています。このような状況なので、銘柄を選択する重要性は今まで以上に高まっているといえます。

# ローム (6963)

横山泰史

## 株価指標

|               |           |
|---------------|-----------|
| 株価 (2023/2/8) | 10,730 円  |
| 売買単位          | 100株      |
| 市場            | 東証プライム    |
| 時価総額          | 11,051 億円 |

## 事業概要

ロームは京都を拠点とする電子部品ของบริษัทです。社名 (ROHM) は、創業の製品である抵抗器 (Resistor) の頭文字である「R」に抵抗の単位である「Ω (OHM)」を組み合わせたものから来ています。ロームが製造する電子部品の特徴としましては、アナログ半導体を得意としていまして、製品としては小信号トランジスタ、小信号ダイオードの生産では世界シェア No.1 となっています。

## 売上高構成比

売上高のうち、約 6 割が海外というグローバル企業として、海外で売上高が多い順に中国 (538 億円)、米州 (487 億円)、欧州 (327 億円)、台湾 (238 億円)、韓国 (183 億円) となります (2022.3 期実績)。

販売先の分野別では、車載 (1652 億円)、民生 (1394 億円)、産機 (696 億円)、事務機 (509 億円)、通信 (270 億円) でした (2022.3 期実績)。

## ビジネスモデル

ビジネスモデルとしては、ウエハ材料からパッケージに至るまで自社にて開発する垂直統合モデルに特徴があります。自社にて開発することで、将来的な競争力を高めることを目的としていますが、この取り組みは、多くの代表的な京都企業にみられる傾向で、ロームもその一角であるといえます。

## <業績の推移:連結>

| 決算期     | 売上高     | 営業利益   | 経常利益    | 純利益    | 1株利益  | 1株配当  |
|---------|---------|--------|---------|--------|-------|-------|
| 2021/03 | 359,888 | 38,488 | 40,672  | 37,002 | 376.2 | 150.0 |
| 2022/03 | 452,124 | 71,479 | 82,551  | 66,827 | 680.6 | 185.0 |
| 2023/3予 | 520,000 | 90,000 | 105,000 | 80,000 | 815.1 | 200.0 |

単位: 百万円 (1株利益、1株配当は円) 予想は会社予想によります。

## <投資指標:連結>

|         |        |
|---------|--------|
| 今期予想PER | 13.2 倍 |
| PBR     | 1.2 倍  |
| 予想配当利回り | 1.8 %  |

## 化合物半導体「SiC」

ロームが株式市場で注目される要因には、半導体分野で注目される化合物である SiC があります。SiC はシリコン (Si) と炭化ケイ素 (C) によって構成される化合物となりますが、ロームは 2009 年にドイツの SiC 単結晶ウエハメーカーでありました SiCrystal を買収して、SiC のリーディングカンパニーとして名乗りをあげています。SiC は従来の Si と比較すると、高電圧に強く、電力効率が高い特徴を備えていることから、EV との親和性が高く、EV の性能を高める素材として、注目されています。

## 2023年3月期の業績予想

ロームでは 2023 年 3 月期の業績は、売上高が 5200 億円と前期比で 15.0% の増収を、営業利益は 900 億円と前期比で 25.9% の増益を計画しています。自動車生産にはまだ弱さがみられますが、自動車の電装化の進展によって、自動車一台当たりの搭載機器の金額の上昇が企業業績に追い風となっています。



出所: Quick よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

## TDK (6762)

横山 泰史

## 株価指標

|               |           |
|---------------|-----------|
| 株価 (2023/2/8) | 4,720 円   |
| 売買単位          | 100株      |
| 市場            | 東証プライム    |
| 時価総額          | 18,350 億円 |

## 事業概要

TDK は 1930 年に東京工業大学の研究者によって世界で初めて発明された画期的な電子材料である磁性材料のフェライトの工業化を目的として設立された企業です。TDK の名前は Tokyo Denki Kagaku の頭文字に由来しています。TDK の事業は、国産で初となったカセットテープで成長し、現在は磁性材料を軸に展開するグローバルな電子部品企業としまして、様々な事業を展開しています。

## 事業構成

2022.3 期の決算では、売上高が 1 兆 9021 億円、営業利益が 1667 億円でした。事業セグメントは、受動部品（セラミックコンデンサ、高周波部品等）、センサ応用製品（温度・圧力センサ、磁気センサ、MEMS センサ等）、磁気応用製品（HDD ヘッド、HDD 用サスペンション等）、エネルギー応用製品（バッテリー等）、その他（メカトロニクス等）という 5 つによって構成されています。これら事業のうち、売上高が最も大きなものがスマホなどモバイル端末向けのバッテリーなどを扱うエネルギー応用製品でして、売上高全体の約半分を占めています。営業利益もエネルギー応用製品が最大で、営業利益全体の約 7 割を占めています（連結調整前）。主要製品となっているスマホなどに搭載されているモバイル向け小型バッテリーは、米国の人気スマホブランドに採用されていて、スマホ向けバッテリーとしては世界シェアで No.1 を誇っています。

## &lt;業績の推移:連結&gt;

| 決算期     | 売上高       | 営業利益    | 税前利益    | 純利益     | 1株利益  | 1株配当  |
|---------|-----------|---------|---------|---------|-------|-------|
| 2021/03 | 1,479,008 | 111,814 | 117,263 | 74,681  | 197.0 | 60.0  |
| 2022/03 | 1,902,124 | 166,775 | 172,490 | 131,298 | 346.4 | 78.3  |
| 2023/3予 | 2,170,000 | 185,000 | 185,000 | 132,000 | 348.1 | 106.0 |

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 予想は会社予想によります。

2021年9月29日に1株を3株に株式分割を実施、遡及修正済です。

2023.3期から会計基準を米国基準からIFRSに変更しています。

## &lt;投資指標:連結&gt;

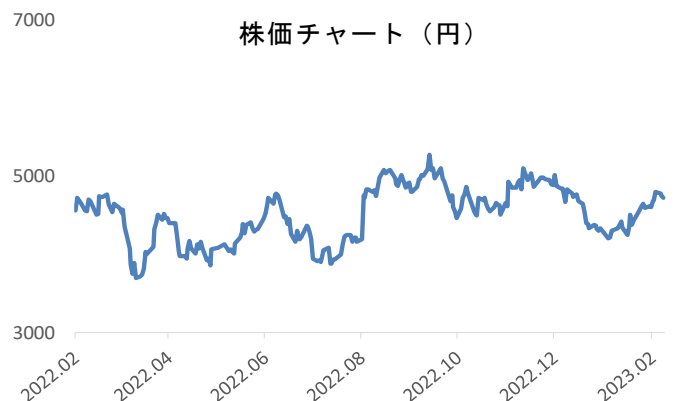
|         |        |
|---------|--------|
| 今期予想PER | 13.5 倍 |
| PBR     | 1.2 倍  |
| 予想配当利回り | 2.2 %  |

## 第3四半期の決算概要

2023年3月期第3四半期累計(4-12月の9ヵ月)の決算は、円安効果もありまして売上高は前年同期比+22.6%の1兆7089億円、営業利益は同+33.5%の1886億円と2桁の増収増益、第3四半期累計としては過去最高を達成しました。収益環境としては、スマホ販売の低迷やPC・データセンター向けHDDヘッドの販売減少といったマイナス材料がありましたが、スマホ向けバッテリーがTDKのバッテリーを搭載した大手得意先の新製品販売効果やEV向けにMLCC(積層セラミックコンデンサ)やセンサの販売が好調に推移したことで吸収しました。

## 株価見通し

足元の事業環境については、透明感が増しているともいえますが、株価水準としては、今期予想PERが13倍程度とバリュエーション的にはまだ割高感が強くないとみています。業績的には、来年後半にかけてPC、スマホ、自動車の生産回復に期待したいところです。



出所: Quick よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

## 金融商品取引法に基づく表示事項

### ■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

### 株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

### お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合は 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合は 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

### 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

LINE公式アカウント  
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報  
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa